

2025(令和 7)年度 高等学校入試

結果分析と学習のアドバイス



雲雀丘学園高等学校

目 次

■2025(令和7)年度 高等学校入試 (A 日程)

国 語

社 会

数 学

理 科

英 語

■2025(令和7)年度 高等学校入試 (A 日程)

国 語

■全体講評

大問1【小説】有間カオル『忘れものは絵本の中に』から出題。

息子と縁を切った俺（祖父）が息子の娘である孫とのかかわりの中で、孫との関係、子との関係を振り返っていく内容。息子は事故で亡くなっており、自分のあり方を後悔してもどうにもできない気持ちが描かれている。

大問2【評論】東浩紀『訂正する力』から出題。

題名でもある「訂正する力」を人間が持つ以上、いかに人工知能が発展しても人間社会を覆い尽くすことはないという内容。

大問1と大問2に同じ傾向が見られた。1つ目は漢字。例年90%以上の正答率が多い中、今年度は60%を下るものもあった。漢字の正答率は80%を越えてほしい。2つ目は選択問題。本文だけではなく、選択肢を読スピードも必要であるが、よく解答できていた。3つ目は記述問題。文末表現の「こと。」「から。」だけでなく設問に対してどう答えるか、本文の一部を切り取って繋いだ結果、内容に合わないまとめ方をしてしまったものが多くみられた。「怒」を「努」、「縁」を「緑」と書き間違える人も少なからずおり、落ち着いて書く心がけが必要であると感じた。

■問題概要

大問	項目	設問形式
1	小説読解	漢字（記述）、語句の意味、空所補充、選択肢・記述での内容把握
2	評論読解	漢字（記述）、語句の意味、空所補充、選択肢・記述での内容把握

■出題主旨

大問1【小説】

問題の中心は登場人物の心情把握。孫が幼い頃の生活にこだわりをもっていない状態であるのと対照的に、俺（祖父）は自分の過去を乗り越えられず、苦しみを抱えたままで孫と接している。この俺（祖父）の心情を表情、言葉などから読み取っていくことを求めた。

大問2【評論】

漢字、言葉の意味、空所補充、内容把握と標準的な出題。選択問題は二項対立をおさえる、傍線部にふくまれる指示語を把握した上で答えを選ぶなど、本文をしっかり読んで対応できているかということを求めた。また、記述も二項対立の関係をおさえて読めば、おそらく70%を超える正答率になると見込んでいた。

本文の内容は、まさに今、現代社会におきている問題であり、入試問題として読むだけではなく、これからの人間の生き方を考える機会にもなるものである。

■対策への助言

中学生で覚えるべき漢字は量が多いが、訓読みや漢字の持つ意味を含めて学習してほしい。それが読解の深さにも、速度にも大きく影響を与えてくる。

小説では心情把握が中心となるが、そのためには契機となる出来事、言動に注意すること。今年度の小説は一場面の展開となっているので、傍線部の周辺だけで解答するのではなく、文章全体に目を向けてほしい。日頃から意味段落を意識して読んでいくこと。

評論では読む際に、接続語や、指示語に注意すること。言い換えられた表現をおさえて読み進めていくこと。日頃から、他教科で学ぶ知識や自らの経験を単独のものとして終わらせるのではなく、横につなげていくことを意識しておくことよい。

■問題分析

【大問1 小説】

問七 ——線部⑤「俺はお前の父親、つまり息子に酷いことをしたんだ」とありますが、「酷いこと」とはどのようなことですか。本文の言葉を使って四十字以内で説明しなさい。(句読点、記号は字数に数えます。)

[解説]傍線部より前に「息子に絶縁宣言なんかしなければ……」とあり、それを悔やんでいる様子が描かれている。また、傍線部より後には、「絶縁宣言」をした理由が描かれている。その両面をまとめていく必要がある。「二度と顔を見せるなと怒鳴ってしまった」は「絶縁宣言」として受け止められるところもあるが、「怒鳴ってしまった」だけを取り出すと意味が異なってしまう。本文の言葉をどう繋げていくかを考えること。

[解答例]自分の会社を継がずに、やりたい道を選んだことに絶望して、絶縁宣言をしたこと。

【大問2 評論】

問九 ——線部⑤「それは、人間のいままでのありかたとあまり変わっていない」とありますが、これはどういうことですか。本文の言葉を使って七十字以内で説明しなさい。(句読点、記号は字数に数えます。)

[解説]ポイントは3点「それ」の指す内容説明、「人間のいままでのありかた」の説明、それが「同じである」ということが分かる表現。「説明しなさい」という問いは、傍線部の言い換えであることを頭において、傍線部と同じ構成にして解答につなげていくことよい。

[解答例]仕組みを理解せずにテクノロジーの恩恵を受けることは、自然界を理解しないまま自然の恩恵を受けている今までの人間のありかたと同じだということ。

■2025(令和7)年度 高等学校入試 (A 日程)

社 会

令和 7（2025）年度 高等学校入学試験 A 日程 分析・社会科

■全体講評

地理的分野・歴史的分野・公民的分野から各 2 題ずつ、計 6 題出題しました。ただし、近年の傾向通り、大学入学共通テストの導入や、高等学校の新課程への移行を踏まえ、思考問題や資料問題を多く出題しました。全体的に基礎的な理解を直接問うような問題で正答率が高かったものの、複数の基礎的知識を組み合わせたり、定番の形とは異なる問い方をしたりする問題では正答率が落ちる傾向にありました。

■出題趣旨・講評

問	分 野	出 題 趣 旨 ・ 講 評
1	地理的分野 (世界地理)	気候、農業、宗教、貿易といった基礎的知識に加え、国や地域の概観を捉えられているかを問う問題を出題しました。図表を用いた思考のプロセスが多い問題では正答率が低くなりました。基礎的知識は定着していることが見受けられました。
2	地理的分野 (日本地理)	
3	歴史的分野	原始から現代にかけての知識を生徒自身の生活との関係から問う大問 3 と生徒の探究活動を題材とする大問 4 の 2 題。歴史用語・人名など知識を問う問題は正答率が高いが、年代整序や時期を問う問題は正答率が低くなりました。絵画史料の読み方を問う思考的な問題は高い正答率でした。
4	歴史的分野	
5	公民的分野	日本の政治と為替相場の推移などを踏まえ、政治・経済両面の基礎的理解を問いました。グラフをもとにした選択問題は正答率が高かったです。円高・円安の要因や影響、金融政策など理解できている受験生が多かったです。政治に関する時事的な用語の記述は正答率が高い問題と低い問題がありました。
6	公民的分野	

■対策への助言

- 単なる用語暗記にとどまらず、地理的・歴史的・公民的事象の理解に努めましょう。そうすることで、定番とは異なる出題や、基礎的な知識を組み合わせで解く問題、あるいは思考力が求められる問題にも対応しやすくなるかと思います。
- 学校の授業での学習を大事にしてください。特に文化財や写真などの資料、古い記録などの史料の活用、思考・判断にも積極的に取り組んでください。
- 時事的な内容にも関心を持ち、ニュースや新聞などに積極的に触れるようにしましょう。
- 全体的に問題量は多いので、解ける分野・問題から確実に解いていきましょう。

■問題分析

【問題】 第1問 (3)

以下の文章は、イタリア、オランダ、ノルウェー、フランスに関する説明です。カナダのケベック州の公用語が、国内で最も多く使用される国の説明として適当なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア この国の農業は、酪農と園芸農業が中心である。EUの前身であるECの原加盟国でもあるこの国には、国際司法裁判所も置かれている。また、標高の低い土地が多く、海面上昇による国土の水没が懸念されている。
- イ この国の沖合には暖流が流れており、国土は緯度のわりに温暖な気候におおわれている。緯度が高いことから氷河地形が多く、フィヨルドでは魚の養殖が行われ、日本にも輸出されている。
- ウ 国土の北部に広い平野を持つこの国は、北部の都市から海を挟んだ向かいの国に海底トンネルが設けられ、国際鉄道が走っている。南部の都市では、航空機の最終組み立てが行われ、EUの航空機産業の拠点の1つとなっている。
- エ この国の国土は全域が新期造山帯で、世界的に有名な火山が複数存在する。世界遺産の数は最も多く、2024年で60件である。1940年には日本と三国同盟を結び、枢軸国と呼ばれた。

【解答・解説】

正解はウ

まず、カナダのケベック州はフランス系住民が多数を占め、フランス語が公用語となっています。そこで、文章ア～エから、フランスを説明しているものを選びます。

アは「ECの原加盟国」「国際司法裁判所が置かれている」「標高の低い土地が多い」といった表現であることから、オランダです。イは「沖合には暖流が流れている」「氷河地形が多い」「フィヨルドでは魚の養殖」との表現から、ノルウェーだと判断します。エは「国土の全域が新期造山帯」「火山が複数存在」「世界遺産の数が最も多い」ということから、イタリアとなります。ウはユーロトンネルを示す「向かいの国に海底トンネル」や、トゥールーズを指す「航空機の最終組み立て」といった表現が含まれることから、フランスと判断します。

【解答・学習上のアドバイス】

近年、スマートフォンやタブレット端末の普及により多くの情報に触れるようになりました。しかし、表面的に言葉を知っているだけで、深い理解に結びついていないことも考えられます。社会科の学習においては、地図帳や資料集を用い、用語や人物の背後にある事象やデータにも触れて欲しいと考えています。時事的な内容については、テレビニュースや新聞にも目を通し、教科書の内容を身近に感じてください。

■2025(令和7)年度 高等学校入試 (A 日程)

数 学

■全体講評

出題形式は例年と同様です。計算力と確率、関数、平面図形、空間図形から高校での学習に必要な知識が定着しているかを問う問題を中心に構成しています。難易度は基本的な知識を確認する問題から、発展的な複合問題まで幅広く出題しました。

計算問題、文章題、関数の問題については正答率が高く、よくできていました。一方で、確率の問題では、問題に沿った数え方があまりできておらず、書き出してから考えることで、時間を消費してしまった様子でした。また、平面図形については、典型的な問題の出来は良かったのですが、補助線を引くことで三角形を「自分で」見つけ出す問題ができていませんでした。日頃から自分で手を動かして図を書いていく習慣が必要です。

■出題趣旨

1. 例年通りの標準的な計算問題。
2. 基本から標準レベルの文章題。
3. 確率の標準的な問題。
4. 2次関数と反比例の複合問題。
5. 平面図形の応用問題。
6. 思考力を要する問題。

■対策への助言

まずは基本的な計算力の向上が必須です。計算力を向上させるためには、途中の式を「ちゃんと書く」ということが肝要です。どのような理論でその計算が可能なのかを説明できるようにしましょう。また、図形問題に関しては、与えられた図に書き込むことはもちろんのこと、自分でも図をかいていく習慣をつけましょう。これについては、立体図形に関しても同様です。図がわからない場合にデジタルデバイスを利用することはもちろん構いませんが、その後に自分の手で再現することをしましょう。最後に全体の問題に共通することですが、単発の解法を覚えるのではなく、問題を類別することで共通の解法がないか、という視点を養っていくようにすると解ける問題が増えていくと思います。

■2025(令和7)年度 高等学校入試 (A 日程)

理 科

■全体講評

理科の4分野(地学, 物理, 生物, 化学)のバランスを考えて, 各分野から1題ずつ出題しました。分野ごとの配点は均等にし, 偏りがないよう配慮しています。今年度は4分野の得点率に大きな差はありませんでした。

理科の基本的な知識を問う問題に加えて, 問題文や表, グラフなどをしっかりと読み取り, 物事の本質を理解して, 解答を導く力があるかどうかをみる問題を出題しています。多くの受験生は基本的な知識をしっかりと身につけており, 知識問題の正答率は高く, よくできていました。どの分野の問題においても, データの読み取り, 物事の本質を問う問題の正答率は少し低いように思われました。

差が付いたのは地学分野の地軸の傾きから太陽の通る位置を考える問題です。地球が太陽のまわりをどのように動いているのか, しっかりと想像できていれば, 答えを難なく導き出せる問題です。日頃から, 現実的な現象を想像し, 理解する勉強が大切になります。

■出題趣旨・講評

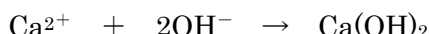
問題 番号	項 目	設 問
1	地軸の傾きと 季節 【地学】	北半球が夏至のときの図を示し、緯度と昼夜の長さの関係や太陽の南中高度の計算などを出題しました。基本的な問題は概ねできていましたが、1年間のうちで太陽が天頂を通過する地点をすべて選ぶ問題では、南半球も含めて完答することが難しかったようです。応用問題として、冬至、春分、夏至の日の日の出時刻を示した図から読み取れることを選ぶ問題を出題しましたが、概ねよくできていました。
2	ばねの伸びと力 【物理】	性質の異なる2つのばねの伸びと力の関係について、表からデータを読み取って考察する問題を出題しました。既成の概念にこだわらず、読み取ったデータを利用することはできていました。経験したことのないばねの性質について、その原因を推論することは難しかったようです。
3	生物の多様性と 遺伝子 【生物】	メダカの遺伝を題材に出題しました。交配実験については、教科書で学習するメンデルの遺伝の法則を用いて解決することができる問いでした。落ち着いて交配の組み合わせを考えれば、答えを導くことができるものでしたが、定型ではない問題の正答率は著しく低かったです。
4	原子とイオン 【化学】	原子とイオンをテーマに、電子の数を考える問題を出題しました。中学理科ではあまり考えない電子の数に、単純な計算での算出にも苦戦していたようです。原子、分子、イオンの構造をしっかりと理解して、演習に取り組んでももらいたいです。

■問題分析

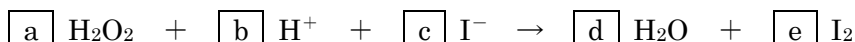
4 【化学分野】

(7) 水酸化物イオン OH^- のように、複数の原子が組み合わさってできたイオンを多原子イオンといいます。化学式より、水酸化物イオンは1価の陰イオンとわかります。このとき、水酸化物イオンの電子の総数を答えなさい。

(8) 次のようなイオンを含む化学反応式をイオン反応式といいます。



上の例では、同じ元素の原子の数が両辺で等しいだけでなく、左辺の+の数と-の数も等しくなっています。上の例にならって、下のイオン反応式中の $\boxed{\text{a}}$ ～ $\boxed{\text{e}}$ に入る最も簡単な係数を答えなさい。ただし、係数が1の場合は、1を記入しなさい。



(7) 多原子イオンであっても、電子の総数の算出方法は同じです。水酸化物イオンのもつ電子の総数は1つの酸素原子がもつ電子の数、1つの水素原子がもつ電子の数の合計に加えて、全体として電子を1個受け取っているの、さらに1個足す必要があります。

従って、8個+1個+1個=10個と導くことができます。

(8) 次のような手順で係数を決定することができます。

- ・ $\boxed{\text{a}}$ に入る数字を1とおくと、酸素原子の数から $\boxed{\text{d}}$ に入る係数は2と決まる。
- ・ 水素原子の数から $\boxed{\text{b}}$ に入る係数は2と決まる。
- ・ 右辺にはイオンが存在しないため、左辺の+の数と-の数が同じであることが分かる。よって、 $\boxed{\text{c}}$ に入る係数は2と決まる。
- ・ 最後に、ヨウ素原子の数から $\boxed{\text{e}}$ に入る係数は1と決まる。

■対策への助言

問題集や過去問を解いて、勉強していると思いますが、ただ解くだけではなく、事物・現象を本質的に理解できているかを確認しながら学習を進めて下さい。また、知識をつけるだけでなく、問題文の読み取りや実験データからの分析をする力も必要となります。与えられた情報をより正確に、確実に把握する力をつけていきましょう。

■2025(令和7)年度 高等学校入試 (A 日程)

英 語

■全体講評

長文読解2題、文法・表現、英作文、リスニングなど計6題で全体正答率は50%に満たなかった。正確な英語の知識・理解と読解力・情報検索力の両方を必要とする問題が含まれる。長文読解では難解な文章をじっくり読み込む力が問われた。大問3・4・5では基本レベルの文法・語法・表現が中心に出題され、リスニングにおいても定番の出題形式だった。

■問題概要

大問	項目	設問形式
1	長文読解	空所補充、整序英作文、内容把握、英問英答
2	長文読解	内容把握
3	文法・表現	日本語が提示されない英文の空所の語(句)選択
4	整序英作文	日本文が提示された整序英作文
5	英作文	日本語で書かれたエッセイ中の下線部英作文
6	リスニング	放送される英文と質問を聴いて内容選択

■各項目別の出題主旨等

大問	項目	出題主旨
1	長文読解	「消費者行動の理解が物を売る上で大切である」という内容の説明文を読み解く問題。内容理解問題や知識と文脈の融合問題など幅広い出題。
2	長文読解	「未来の医薬品」という題のリーフレットと施設訪問前の高校生2名の会話、また訪問後の評価レビューをもとに、解答に必要な情報を読み解く問題。3つの英文を横断しながら必要な情報を集め、正確に解答を導く力が求められる。
3	文法・表現	日本文のない短文の穴埋め選択問題。文の構造把握や意味類推をしながら、文法・表現の知識が求められる問題で、基本レベルの出題。
4	整序英作文	提示された日本文の意味を正確に捉え、指定された英語表現を使って英文を構成する力を問う問題。
5	英作文	提示された日本文の意味を正確に捉え、最適な表現を導き出し、正確な文法・表現を正しく表記できるかを問う問題。
6	リスニング	海中を撮影する写真家へのインタビューを聞いてその内容に対する質問を聞いて答えを選択する問題。選択肢の先読みである程度推測し、必要な情報を聴き取る問題。

■問題分析

【1. 長文読解】

全体の正答率は大変低かった。内容にあまりなじみがなく、英文のレベルも高かったことがその大きな要因であると思われる。なかでも文法力が求められる問(1)①⑦の正答率が特に低かった。⑦についてはかなりの難問で仕方がないが、①については **be satisfied** の解答はそれほど難しくはないと考える。一方で問(4)整序英作文は予想以上に正解率が高かった。基本的な構文はよく理解できていると推察される。問(6)の英問英答については解答となる英文を見つけることができるかどうかのポイントであったが、英文の量と内容の難解さによって時間が足りずに全く解答できていない答案が多かった。

【2. 長文読解】

大問2の全体平均は46%の正答率で、英文難度に比してやや低い印象。入試全体の英文量が多かったことにより、解答時間が圧縮された様子が見てとれる。英文リーフレットの内容に照らして正しいものを選ぶ 問(2)の内容一致や、施設訪問の具体的な日時を問う問(4)など、一つの情報源から明示的に答えがわかる設問の正答率が高かった。一方、複数の英文を横断して答えを見つけ出す設問群の正答率がおおむね40%と低かった。本文内容を言い換えた問題での誤答や、問(1) **museum** を「美術館」などと一義的にとらえているであろう誤答も目立った。

【3. 文法・表現】

基本的な文法・語法・表現が定着している受験生が多かったが、綴りのミスが目立った。また全体の意味をとらえず、部分的に解釈した解答も見られた。

【4. 整序英作文】

小問3問で、1問目の語数が多かったこともあり、3問の中では正答率が一番低かったが、全体の正答率は75%程度と高く、基本的な文法・語法・構文が定着している様子が見られた。

【5. 英作文】

文脈を判断して解答する必要がある、小問1の「水の大切さ」を「水は大切である」と解釈して作文した解答が多かった。模範解答以外の多様な解答が見られる中で、正しい表現が多く見られ、応用力が感じられた一方で、こちらでも綴りのミスが目立った。

【6. リスニング】

英文と設問は印刷されていないため、選択肢の先読みをしてある程度内容と質問を推測しておく必要がある。1回目の放送では英文全体を把握しながらも質問に関連する箇所を探し出し、2回目の放送では質問に対して必要な情報に絞って確認しなければならない。全体の正答率は大変良くできており、小問5のインタビュー全体の内容から正しい英文を選ぶ問題がポイントであった。

■対策への助言

長文読解では、基本的な文法・語彙を定着させながら、多様なテーマの読解演習が必要となる。語彙・文法などの知識や理解はもちろん、多くの英文に接し、英文を読むスタミナを養うことが何より大切である。速読や音読練習も読解力アップに欠かせない大切な手法である。

文法・表現問題では、基本的な文法・構造の理解・定着を目指しながら実践練習に取り組もう。定番の文法・構文以外の表現にも挑戦したり、スピーキング練習も同時に取り組もう。

リスニングでは事前に選択肢などの先読みをして類推する練習をしたり、質問に対して必要な情報を検索する練習をしよう。長文読解と同様に多様なテーマ・形式の実践練習も効果的だ。復習では放送原稿を使って聞き取れなかった表現、意味の分からない箇所、読解できなかった箇所などを確認しましょう。何度も反復リスニングや音読練習をすることによって長文読解やスピーキングなどとの相乗効果が期待できる。